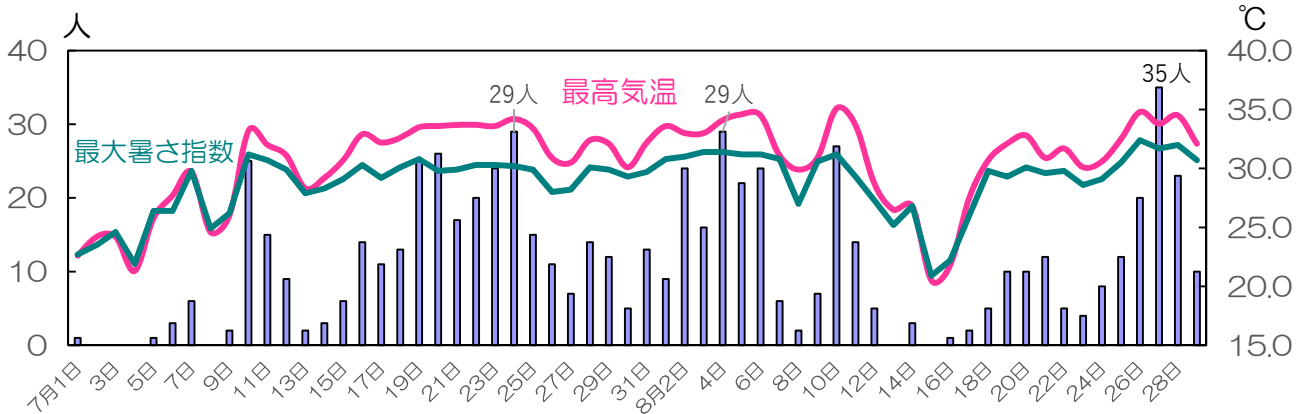


# 熱中症情報

## <搬送数>

令和3年5月1日～8月29日までの搬送数（消防局データを使用）は、計735人（5月19人、6月42人、7月329人、8月345人）でした。8月上旬は、最高気温が33℃を超え、搬送数も多かったですが、8/12～17日は、30℃以下で、搬送数は減少しました。8/26～28日は、33.8℃以上になり、搬送数も20人以上と多く、8/27は35人でした。こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。

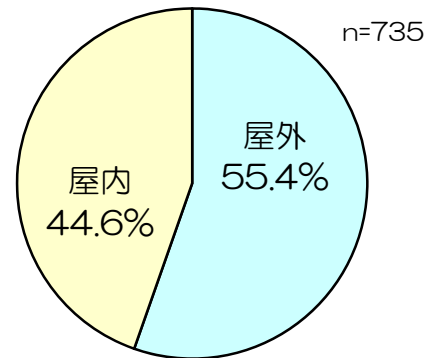
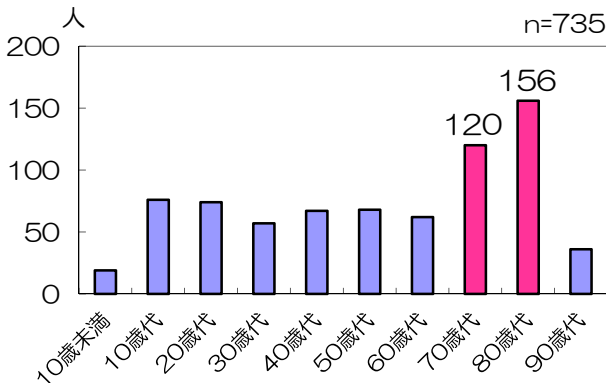
熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の防止とともに、熱中症予防にも心掛けましょう。



**暑さ指数とは？**人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

以下のグラフのデータは、5月1日からの累積搬送数です。

**<年齢別>** 80歳代が156人（21.2%）で最も多く、**<発生場所>** 屋外55.4%、屋内44.6%で、屋外での発生が多くなっています。次が70歳代で120人（16.3%）でした。



**<重症度>** 軽症59.2%、中等症36.7%、重症2.9%、重篤1.2%でした。高齢者（65歳以上）の中等症以上の割合が57.5%と、高くなっており、高齢者に重症化する傾向がみられます。

